

三愛ビュー

発行所：三船病院相談室
創刊日：2003年8月15日
〒763-0073
香川県丸亀市柞原町366
Tel 0877-23-2341
Fax 0877-23-2344

「第X次ダウンサイジングプロジェクトを終了して」

院長 三船 和史

ダウンサイジングとは規模(病院の規模)を小さくするというのですが、その言葉の中には、さらに“質を高める”という意味も含まれています。三愛ビュー第33号(平成25年10月1日発行)の中でさらなるダウンサイジングを計画していると述べましたが、その約1カ月後には7つの病棟のうち1つの病棟を廃止する時期を平成26年4月初めとすることを決定し、具体的に行動を開始しました。国の方針は、精神科病院に入院する患者は急性期患者と重症かつ慢性患者であり、そのいずれにも属さない入院患者はこれからは地域で支えていくようにということです。退院後の受け皿が未だ貧困であるわが国の状況からすれば極めて困難に思える方針ではありますが、当院ではその考えに沿って平成18年からダウンサイジングを推し進めてきました。

今回は最終のダウンサイジングプロジェクトと位置付け、退院患者様の中には重症ともいえる方もある程度含まれています。病気の程度が重症であっても、人に迷惑をかける等の問題行動がなければ必ずしも入院を継続していく必要性がないと判断したためです。

これまで、病状が悪い、家族が退院を望まない、本人が退院を希望しない(あるいは拒否する)などの要素が重なると、その患者様の全責任を有する主治医はなかなか退院の方向に進めていかないという傾向があります。その結果、長期入院患者数が減少していかないということになります。そこで管理者である院長の方針と行動が重要になってきます。

当院ではつぎのように行っています。長期入院者で退院が可能と思われる患者様はまず、病棟看護師長によって選択されます。主治医が退院が難しいと思っても、病棟内で日常的な態度等を観察している看護師から見れば案外退院できそうだと判断されることがあります。そうして選択された患者様は、主治医と看護師や精神保健福祉士などとの話し合いの結果、退院可能かどうかの最終決定がなされます。

退院可能と判断された患者様に対しては、精神保健福祉士が退院に向けた種々の準備や調整に力を発揮し、その多くの方が退院へと導かれています。その結果、4月初めまでに数十名の長期入院患者様が

退院することができました。

本年4月に改正精神保健福祉法施行と2年毎の診療報酬改訂がありました。そのいずれにおいても精神保健福祉士の役割がこれまでになく重視されています。前者では入院患者の人権、後者においては入院患者の退院促進に対する役割が期待されています。

当院では昭和57年に初めて精神科ソーシャルワーカー(PSW といい、後の精神保健福祉士に相当)を採用し、特に入院患者様の退院支援や地域内サポートシステムの構築に彼らは大いに寄与してきました。現在では三船病院内に14名、三愛会コミュニティケアセンターに19名の計33名の精神保健福祉士が所属しています。今回の法改正等によって、特に病院内で働く精神保健福祉士のニーズが格段と増えてくると考えられます。

今回のダウンサイジングプロジェクトにおける退院の受け皿になったのは、自宅、有料老人ホーム、グループホームなどですが、特にグループホームの役割が大きかったと考えられます。昭和61年に初めて共同住居「清和荘」(定員10名)を作りました。それ以前にも小規模(1, 2名程度)の共同住居を運営していましたが、ある程度の規模の共同住居は初めてでした。国が制度化していない時代であったため共同住居という名称が使われていたのですが、現在でも認可を受けずに善意で運営している住居についてはグループホームという用語は使用せず共同住居という名称を使用して区別しています。その後昭和63年7月の精神保健福祉法施行に伴って制度化された福祉ホームに名称を変え、更には平成5年に制度化されたグループホームなどをニーズに応じて増やしていき、現在、グループホームのみで9カ所90人定員になっています。本年3月末10人定員のグループホーム2カ所(レイクビュー2、レイクビュー3)が完成し、今回のダウンサイジングの大きな受け皿になりました。

今回のダウンサイジングによって稼働病床数が390床から330床まで減少しましたが、この数字を見るとまだまだダウンサイジングが可能であるように思われます。そして、入院している患者様は国の方針に沿った形である急性期患者様と重症の慢性期患者様のみにますます近づいていくと考えています。

「ワークサポートセンター三愛の現状と課題」

多機能型事業所 ワークサポートセンター三愛 管理者 松原 美和

平成26年4月1日に多機能型事業所ワークサポートセンター三愛が開所しました。多機能型事業所花園荘で実施していた就労継続支援 B 型事業所(定員20名)をさんあいと改称し、継承するとともに新たに就労移行支援事業みなみ(定員10名)を開設しています。B 型事業所さんあいは現在登録者42名、一般就労は難しいけれども作業活動が可能である障がい者を有する方を対象にこれまでの内職(箱折り、ポンド貼り)・農作業・バザー参加の活動を行っています。新たに食器洗浄作業を加え、1日スタッフ1名が同行し、メンバー3名で活動を始めました。スタッフが一緒になって現場にいる安心感があり、メンバーの不安軽減に繋がっています。

就労移行支援みなみは現在3名が利用中で今後、利用者が増える予定になっています。みなみは一般就労を目指す障がい者を有する方を対象に2年間訓練を実施します。一般企業の協力を得て企業内実習を実施、SSTやグループワークを併用し、就労に必要な対人関係の持ち方、知識を学習し、身につけていきます。パソコン室も完備し事務職に必要とされる基礎的なパソコン操作の練習を行えるようになっています。また、みなみを模擬会社として来所時から挨拶に始まり、1日のスケジュールを意識した動きをしています。まだ始まったばかりの事業で慣れないところもありますがメンバーの将来の就労に向けて自信をつけ、企業で定着できる力を養うため、メンバー、スタッフ共に真摯に取り組んでいます。

す。本格的な就労への活動が始まれば障がい者・生活支援センターくばら、ハローワーク等と連携し就労をサポートしていく予定です。

両事業とも利用の際には当事業所の見学・面接後、居住地への申請、調査、計画相談が必要で利用料も個人によって異なります。

ワークサポートセンター三愛の今後の課題として、就労継続支援 B 型事業さんあいに関してはこれまでの事業や長所を継承しつつ、新たな取り組みを模索し工賃アップにつなげていくことが挙げられます。同時に大切にしていきたいのはメンバーの個別支援に組みたいということです。就労移行支援事業みなみはまさに、就労支援をいかにしていくか、だと思いますが、みなみについても個々のニーズに細やかに対応していくことを大事にして組みたいと考えています。周囲の皆様のご協力を得ながら取り組んでいきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



三船病院医師からのメッセージ・・・

「不眠症」

三船病院 医師 大西 睦美

日常生活において、睡眠が障害されることは非常に苦痛を伴います。今回は、睡眠障害のなかで身近な不眠症について、ご紹介させていただければと思います。

不眠症の症状は大きく以下のようなものに分類されます。

入眠障害：布団に入ってから寝つくまでに時間がかかる（30～1時間以上）

中途覚醒：夜中何度も目が覚めて、なかなか寝つけない

早朝覚醒：朝早く目が覚めてしまい、それから再度眠ることができない

熟睡障害：ぐっすり眠れた感じがしない、眠りが浅い



上記のような症状は、1つだけ見られることもあれば、2つ以上見られることもあります。

また、大きな病気（身体疾患、精神疾患）の一症状、サインとして出現していることがしばしばで、その場合は睡眠状態の改善だけではなく、原因となる病気の把握、治療を行なうことが非常に重要となります。不調を感じられている際は、ぜひご相談下さい。

三愛会 トピックス

★三船病院家族会

5月18日(日)に三船病院家族会を開催しました。今年「ピーチパインパラダイス」をゲストにお招きし、華やかな歌謡ショーが行われました。

毎年恒例のバザーも皆様からの好評をいただき、たこやきやケーキセットも完売となりました。お天気にも恵まれ、来場者も多く、たくさんの笑顔にあふれた家族会となりました。



★第27回家族教室

5月18日(日)三船病院家族会に合わせて、第27回家族教室を開催しました。三船病院医局長の森秀徳医師から「精神科の病気とお薬について」と題して、精神科の病気と薬についての講演がありました。ご家族様、当事者の方を合わせ23名とたくさんの方が参加され、病気や薬について理解を深める良い機会となりました。



三船病院 委員会活動紹介

「 診療録管理委員会 」



副委員長 直井 千恵子

診療録管理業務の円滑かつ効果的な運営を図るため、診療録等記録管理に関する事項を審議するための委員会です。委員会は平成18年4月より毎月1回定期的に開催しています。カルテ管理はもちろんカルテ記載の内容やカルテの綴り順などのチェックをし、周知を行ってきました。カルテ記載の監査、指導の実行部隊として、医師7名、看護師16名が交代で診療録チェックを実施しています。毎月病棟毎に入院カルテを数冊監査し、医師・看護師にフィードバックすることで、診療録、看護記録などの質の向上を図るようにしています。

平成25年3月11日より、当院へ電子カルテが導入さ

れました。いつでもどの部署でも簡単にカルテを開くことができ、患者様の情報を共有することが可能となりました。パソコンに慣れていない職員にとっては、大変だったと思いますが、1年が経過し軌道に乗ってきたと思われます。読みにくかった字は活字により読みやすくなり、また患者様情報は半永久的に保存され必要時に引き出すことも可能となりました。今後、引越し業者などと言われながらのカルテの整理は徐々になくなります。しかしその反面、紙ベースと違い電子カルテを開いての記載内容のチェックは大変ですが、これからも業務を行っていきたいと思います。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・臨床バス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)

【介護老人保健施設 福寿荘】



「誕生会について」

介護福祉士 大平 竜裕

私が福寿荘に入社して六年が経とうとしています。仕事にも慣れ、後輩もでき楽しく仕事できています。介護福祉士である私は、どうすれば利用者の方が生き甲斐を感じ、楽しく生活していただけるかを考えながら接するようにしています。

利用者の方に楽しく生活していただくための取り組みとして毎月の行事や誕生会があります。私は約2年半誕生会の司会をさせてもらいましたが、大勢の前で話すのが苦手で、先輩方にアドバイスをもらいながら頑張ってきました。

誕生会では、誕生月の方の紹介やカラオケを行っています。カラオケの好きな方は作詞をして下さったり、デュエットをして下さったりします。利用者の方から、「司会がうまくなったなあ」と声をかけてくれた時はとても嬉しく達成感を感じました。利用者の方々はお元気で、中には百歳を超えた方もおり、人生の大先輩の方々から勉強させてもらう事がたくさんあります。また、司会を通して「笑顔の大切さ」を感じることもできました。自分自身が笑顔でいれば、みなさん笑顔で応えてくださいます。これからも利用者の方、ご家族、職員と接する際は、笑顔を忘れずにいたいと思います。最後になりますが、誕生会の司会をさせていただくことでさまざまな事を学ぶことができ、感謝しています。ありがとうございました。



【三愛会コミュニティセンター】

「地域活動支援センターはなぞのの紹介と今年度の抱負」

地域活動支援センターはなぞの 精神保健福祉士 高尾 彩

地域活動支援センターはなぞのは、地域で暮らす精神障害のある方に向けて、活動の場やいこいの場の提供を行い、生活の中で困っていることの相談の場として活動しています。現在、県内外合わせて150名の方が利用登録をされています。祝日以外の午前8時～午後5時15分まで開所しており、毎日通ってこられる方、活動に参加される方、職員と定期的に面接相談される方、受診や作業所の帰りに立ち寄り下さる方、お電話でご相談くださる方など、それぞれの生活に合わせて自由に利用していただいています。

昨年度、はなぞのでは利用メンバーの皆様に向けてアンケートを実施しました。アンケート結果からは「心身共に健康でありたい」「充実した生活を送りたい」「不安や悩みを相談したい」などのご意見を多くいただきました。このアンケート結果を踏まえ、今年度ははなぞのでは以下の3点を目標に施設運営を行う予定です。

- ① アンケート結果を反映させた事業・活動の実施
- ② 相談支援事業所をはじめ、他機関との連携の強化
- ③ メンバーの皆様が相談できる関係の構築

はなぞのでは現在、精神保健福祉士、ソーシャル・ワーカーなど3名の職員が配置されています。メンバーの皆様が日々の生活の中で感じている思いに寄り添いながら、その人らしい暮らしが送れるよう共に歩む姿勢で支援に関わらせていただきたいと思います。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

- 三船病院夏祭り
- 日時：8月9日(土)
- 場所：三船病院運動場
- 内容：バザー、花火等



《編集後記》

あじさいが色鮮やかな季節となりましたが皆さまいかがお過ごしでしょうか。1面でふれましたように、三船病院では4月に大規模なダウンサイジングとグループホームの拡大を行いました。今後も皆さまの地域生活に向けて、共に歩み、取り組んでいけるよう日々努力していきたいと思っております。また、5月中旬に開催いたしました三船病院家族会及び家族教室では汗ばむ陽気のなか、大勢の方にご参加いただきありがとうございました。さて、今年も三船病院夏祭りを予定しています。多くの方のご来場をお待ちしております。

(三船病院相談室PSW)